さわかぜ

号　数　第　３　５　３　号
発行日　令和７年12月１日
発行所　金 光 教 靭 教 会
〒550-0011
大阪市西区阿波座2-2-10
TEL&FAX　06(6541) 6313
mail：utubo1905@gmail.com

生神金光大神大祭が仕えられました（10月26日）

一年を顧みて深く感じること

教会長　鍵　山　公　生

私はいま現在、命のあることを顧みて、自分の力で生きているのではなく、天地の大いなるお働きを受けて生かされているということを、今更ながら有り難く素晴らしいこととつくづく感じ感謝せずにはおられません。そこでその中で何を感謝すればいいのかを考えてみました。

今の世になって米騒動とは

今年の夏にはどこのスーパーに行っても、いつも積まれていた米袋がなくなっていたのです。明日から何を食べていけばいいのかと心配になってきました。その時私は戦後の食料不足の中を通り抜けてきた経験上、食べるものがないほど辛いことはないことを思い出しました。その当時を経験した人々は同じよう

に感じたことでしょう。

お米は配給といって、市から配られるクーポン券の分量しか買えず、その他に代用食といってナンバ粉（トウモロコシ粉）や水くさい薩摩芋の配給物がありました。

その他教会横の少しの空き地に植えてあったサツマイモがまだ大きく育っていないのに、親に隠れて掘り起こし、生のままこっそりかじって空腹を押さえたこともありました。そのときはうまいとか、まずいなど考えること無く、何とか飢えを凌ぎたいばかりで、やせ細りながらそれなりに成長し、高校卒業のころ校医の健康診断時、「この子は栄養失調ですね」と言われる始末でした。その後金光教学院（教師養成機関）に入学して２年間寮生活をして、ご本部のお下がりでお育ていただきました。

卒業後、靭教会に来させていただき、２代教会長和田こゆみ先生のおそばでご修行させていただくことになりましたが、先生は食料など一切ご自分で買い求めることなく、そのことを心得た信者さんがお供えになった品物を神様からお下げして召し上がっておられたのです。そこで私と同居生活することになると食料不足は必至でした。

真心のお供え

当時参拝していたもの静かな高齢婦人がおられました。その方のご家庭は裕福そうに見えましたが、ご主人は経済的に大変厳しく、奥様には少しのお金も自由にさせてもらえず、教会に参拝するのにお賽銭もなかったのです。奥様が自分で自由になるものといえばご飯を炊くときのお米ぐらいでした。そこでご飯を炊く度に一握りのお米を別に取り置いて、それがいくらか貯まれば袋に入れてお賽銭代わりに教会へ持参されるのでした。その話を親先生から承ったとき、本当に真心のお供えだ、いい加減な心ではお下がりを食べられないと思ったものです。

またあるご婦人は近所の空き地のすみっこを借り、素人ながら僅かの野菜を植えられ、そこで育った茄子を２つほど持って「先生、こんなに育ちました」と言って、にこにこしながら差し出されたのでした。わざわざ電車を乗り継いで持って来られたそのご婦人の嬉しそうな顔は今も忘れられません。そのような真心の積み重ねにより教会は維持されてきたのです。

教祖様は「暴飲、暴食は神様にご無礼である」と仰せられ、日々の生活の中で心得ていかねばならないと感じたものです。

お米や作物はどのように生育するのでしょうか

ある信奉者から次のようなお便りをいただきました。
今年の夏の日照りはきつく、その上、雨が全く降らない日が続き、奥様の里にある田んぼで植えた稲が順調に育つだろうかと気をもんでおられましたが、天地の神様のおかげをいただいて、何とか平年通りの収穫ができ、ありがたいことと喜んでいますとのことでした。　そのお便りを読ませていただき、金光様のみ教えを思い出しました。

雨が長らく降らず、作物が無事生長するだろうかと心配するものですが、天地の神様は地の底から水分を突き上げるように与えてくださり、また空気中から湿気を与えて作物を湿らせてくださるのです。そのようなお働きがあってこそ、作物が枯れず、立派に育ってくださるのだとお教えくださっているのです。天地の神様の絶大なるお働きの尊さに感謝申し上げずにはおられません。

神様は私たちの気付かないところで、人間を始め動植物一切を育てよう、助けようとしてお働きくださっているのです。

このように私たちが、信心しておかげをいただきたいと願いますが、願う前から神様はおかげをくださっているのです。そのように天地のお恵みにいかほどお世話になり、感謝させていただいてもし過ぎることはありません。今年の米騒動を通して、天地のお恵みの尊さを顧みて、お米を始め、食料のありがたさをかみしめてお礼を申し上げましょう。

さわかぜ賛助会員募集

靭教会機関紙「さわかぜ」は、皆様のお祈りとお力添えによりまして、令和７年度は７回の発刊が出来、教会内外のお役に立たせていただいて参りました。皆様からご意見やご感想をお寄せいただいて、より立派で楽しい機関紙にお育ていただけますよう宜しくお願いいたします。

さて、今年に引き続き、来年度の賛助会員を募集いたします。今後とも教会機関紙永続発展のため、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

なお、一口千円で、二口以上ご協力下さい。
申込はなるべく、１２月末日までにお願いいたします。

郵便振替口座番号　００９５０－３－６１５１５
口座名義　　金光教靭教会

「ありがたやま　かたじけなすび」

副教会長 鍵 山 道 隆

「ありがたやま・かたじけなすび」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、今年のNHK大河ドラマ『べらぼう』に登場する蔦谷重三郎という人物がよく使う、ちょっとユーモラスな感謝の言葉です。

意味と由来

「ありがたやま」は、「ありがたい」という言葉に意味のない「山」を添えて、感謝の気持ちをユーモラスに表現する江戸時代の洒落言葉です。これは「地口（じぐち）」と呼ばれる言葉遊びの一種と紹介されていました。

使用例

「ありがた山」は単独で使われるだけでなく、「ありがた山桜」や「ありがた山の鳶烏（とんびからす）」、「ありがた山の寒がらす」のように、さらに言葉を続けて使われることが多かったようです。これらの言葉は、感謝の意を強調したり、ユーモラスなニュアンスを加えたりするために用いられたようです。

現代的に言えば、「あたりまえだのクラッカー」「すいま千円」漫画のクレヨンしんちゃんなら「おかえりんご」「ただいマンゴー」といったところでしょうか。

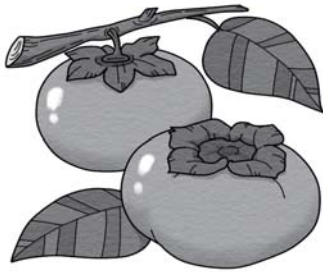
「ありがたし」は形容詞で感動や畏敬の念を表す言葉で、「ありがとう」という感謝の言葉は、江戸時代より以前は使用されなかったそうです。感謝の言葉は、「かたじけない」とか「痛みいります」と言っていたのではないでしょうか。

「ありがとう」の語源

この「ありがとう」の語源は、お釈迦さまのお話にあります。

仏説譬喩経に「盲亀浮木のたとえ」と言われるたとえ話があります。

ある時、釈迦が、阿難という弟子に、「そなたは人間に生まれたことをどのように思っているか」と尋ねた。



「大変、喜んでおります」と阿難が答えると、釈迦は、次のような話をします。

「果てしなく広がる海の底に、目の見えない亀がいる。その盲亀が、百年に一度、海面に顔を出すのだ。広い海には、一本の丸太ん棒が浮いている。丸太ん棒の真ん中には小さな穴がある。その丸太ん棒は、風のまにまに、西へ東へ、南へ北へと漂っているのだ。阿難よ。百年に一度、浮かび上がるこの亀が、浮かび上がった拍子に、丸太ん棒の穴に、ひょいと頭を入れることがあると思うか」

阿難は驚いて、「お釈迦さま、そんなことは、とても考えられません」「何億年掛ける

何億年、何兆年掛ける何兆年の間には、ひょっと頭を入れることがあるかもしれませんが、無いと言ってもよいくらい難しいことです」

釈迦は「ところが阿難よ、私たちが人間に生まれることは、この亀が、丸太ん棒の穴に首を入れることが有るよりも、難しいことなんだ。有り難いことなんだよ」と、教えたのです。

「有り難い」とは「有ることが難しい」ということで、めったにないことをいいます。人間に生まれることは、それほど難しいことなのです。仏教では、人間に生まれてきたことは大変、喜ぶべきことであると教えられています。

「他人から何かしてもらうことは、めったにないことなんだよ、有り難いことなんだよ」というところから「有り難い」、それがくずれて「有り難う（ありがとう）」となったとのことです。

私たちは、一人では生きていけません。多くの人やもの、働きのおかげで生きています。その謙虚な心から、有り難いという心が現れてくるのです。

謙虚な心も

ある教会の先生が、四代金光様にお届けをされたときのことです。先生は、深い敬意と慎みの心から「わたくしのようなものが…」と口にされました。すると、四代金光様から「私でよろしい」と言われました。その一言に、先生ははっとされたそうです。

「私のようなものが」と言うとき、そこには謙遜の気持ちが込められているようでいて、実は神様からいただいているおかげを低く見てしまう危うさがあるのです。自分が今ここにいて、御用をさせていただいているということは、それだけのものを神様から与えられているということ。にもかかわらず、自分を過小評価することで、そのおかげを否定してしまうことになりかねないと受け取られました。

卑下とは、自分を必要以上に低く見てしまうこと。たとえば「私なんてまだまだです」「何の取り柄もありません」といった言葉。確かに謙遜のつもりで言っているかもしれません。でも、それが過ぎると、自己否定や劣等感につながってしまいます。神様が繰り合わせてくださったご都合や、お導きの働きをないがしろにしてしまう恐れもあるのです。

本当の謙虚さとは、自分ができていることを素直に喜び、感謝すること。他の人や環境、神様の働きに支えられていることに気づき、慎みを持って生活することです。「これしかできない」と嘆くのではなく、「ここまでできた」と喜ぶ心を持つこと。人と比べてできないことばかりに目を向けるのではなく、自分の歩みを絶対評価で見ていくことが大切です。今の自分の中にある喜びを見つけて、「ありがたいなあ」と思える心。それこそが、神様のおかげを生かす道なのです。

（令和７年 11 月９日 月例祭時教話より）

令和７年 12 月

７日（日） うりわり墓参　　午前７時
１３日（土） 月例祭執行　　午前１０時３０分
１４日（日） 布教功労者報徳祭　御本部参拝
午前７時
１９日（金） 信徒共励会　　午前１０時
２１日（日） 月例霊祭執行　　午前１０時３０分
祭典後教話、大阪府連盟布教部講師
３０日（火） 越年祭並びに人形行事
午前１０時３０分

令和８年１月

１日（祝） 元旦祭執行　　午前１０時３０分
４日（日） うりわり墓参　午前７時
１０日（土） 御本部年賀参拝　新幹線にて
１１日（日） 初月例祭執行　午前１０時３０分
祭典後、信徒会総会・新年会

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出ししてご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。（12月21日午前10時30分より）

さわかぜは、靭教会ホームページからもお読みいただけます。

金光教うつぼ教会　検索

https://utubo.konko.info/